**２０２３年７月30日(土)　市民交流センター会場**

伊藤伊那男

大欅どんと構へて夏終る 大野田井蛙

〇 昨夜来たスナックは何処夏真昼 天野明雀

向日葵や明日には背丈超されさう 木村さとみ

人来るや涼し人去るまた涼し 横澤放川

鉤の手に北国街道日の盛り 木村由里子

奥坂まや

父親をゴジラと見立て水鉄砲 小泉博夫

三代の遺影なりけり瓜三つ 伊藤伊那男

禅院の裏庭の溢るるダリア 朝川由美子

〇 神宿る風穴山に蝉時雨 向井久子

けふひと日鳴き切ると決め蟬時雨 大野田井蛙

横澤放川

冷し瓜芯のところがややぬるし 伊藤伊那男

山国やダリアは強き色放つ 朝川由美子

〇 蟻の列疾風のごとく幹下る 奥坂まや

瓜熟るる小海駅まで登り坂 小泉博夫

もてなしは虚子の逸話と冷し瓜 伊藤伊那男

向井久子

向日葵や明日には背丈超されさう 木村さとみ

花豆のぷつくり朝の畑涼し 木村由里子

晩涼や風は群青山の里 吉田朝江

母の手と同じ染みあり胡瓜揉み 勝又樂水

〇 けふひと日鳴き切ると決め蟬時雨 大野田井蛙

吉田朝江

神宿る風穴山に蝉時雨 向井久子

〇 山門を入り朝蟬のまばらなる 朝川由美子

青芝の奴隷と言ひて住職は 木村さとみ

鉤の手に北国街道日の盛り 木村由里子

日盛や原色うねる遊園地 奥坂まや

勝又樂水

城址は坂の下なる冷し瓜 伊藤伊那男

〇 晩涼や風は群青山の里 吉田朝江

青ぬくる信濃の空や青胡桃 大野田井蛙

青芝の奴隷と言ひて住職は 木村さとみ

三代の遺影なりけり瓜三つ 伊藤伊那男

小泉博夫

〇 土用芽もさながら噴きぬ大浅間 横澤放川

夏暁の玻璃を雀のひた往き来 勝又晃衣

もてなしは虚子の逸話と冷し瓜 伊藤伊那男

日盛や原色うねる遊園地 奥坂まや

大欅どんと構へて夏終る 大野田井蛙

岡部健二

母の手と同じ染みあり胡瓜揉み 勝又樂水

蟻の列疾風のごとく幹下る 奥坂まや

〇 もてなしは虚子の逸話と冷し瓜 伊藤伊那男

風止みて炎帝威光増すばかり 吉田朝江

昨夜来たスナックは何処夏真昼 天野明雀

天野明雀

人来るや涼し人去るまた涼し 横澤放川

〇 蟻の列疾風のごとく幹下る 奥坂まや

立葵列車の過ぎる音がする 塩川孝治

花芯へと黄を深める白ダリア 勝又晃衣

伸びやかに広がつてをる夏の川 塩川孝治

塩川孝治

千曲川夏の大地を切りさいて 岡部健二

けふひと日鳴き切ると決め蟬時雨 大野田井蛙

〇 Sの字に乾ききつたる蚯蚓かな 向井久子

転がして瓜の値段の何んぼかな 小泉博夫

向日葵や明日には背丈超されさう 木村さとみ

大野田井蛙

花芯へと黄を深めたる白ダリア 勝又晃衣

昨夜来たスナックは何処夏真昼 天野明雀

母の手と同じ染みあり胡瓜揉み 勝又樂水

冷し瓜浅間隠しの見ゆる町 伊藤伊那男

〇 もてなしは虚子の逸話と冷し瓜 伊藤伊那男

朝川由美子

〇 指呼涼しあなたに千曲小学校 横澤放川

昨夜来たスナックは何処夏真昼 天野明雀

転がして瓜の値段の何んぼかな 小泉博夫

開け閉ての引戸三枚片かげり 勝又晃衣

逃がさうと思ひ包めば噛む蜥蜴 木村さとみ

勝又晃衣

〇 日盛や原色うねる遊園地 奥坂まや

大声がお花畠に殴り込む 奥坂まや

蝉の声聞きつ風穴別天地 吉田朝江

天牛の骸蟻曳くエンヤラヤー 奥坂まや

ぴくと動くはちぎれたる蜥蜴の尾 朝川由美子

木村由里子

ごろごろと兄弟八人瓜畑 小泉博夫

〇 谷へ向かひて青山の迫り出せる 塩川孝治

石垣の隙間にかすか涼風を 向井久子

晩涼や風は群青山の里 吉田朝江

ぴくと動くはちぎれたる蜥蜴の尾 朝川由美子

木村さとみ

冷し瓜芯のところがややぬるし 伊藤伊那男

Sの字に乾ききつたるかな蚯蚓かな 向井久子

〇 昨夜来たスナックは何処夏真昼 天野明雀

一軒で足るを知らずや暑気払 大野田井蛙

ごろごろと兄弟八人瓜畑 小泉博夫